



インフルエンザとヒトメタが急増！

昨年末から今年の3月にかけて流行したインフルエンザ。4月以降いったん沈静化していましたが、2学期が始まった9月に入り、急増してきています。市内の一部の小中学校では学級閉鎖の措置がとられた模様です。現在、検出されているインフルエンザのタイプはすべてA型で、二峰性の発熱パターンをとるお子さんもよくみかけます。

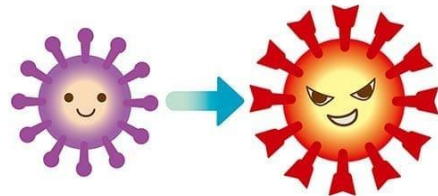
一方で、保育所や幼稚園のお子さんの間では、ヒトメタニューモウイルス感染症が大流行しています。発熱が続く、咳が日増しにひどくなってくる場合は、ヒトメタニューモウイルス感染症が疑われます。ヒトメタは気管支炎を起こす呼吸器感染症ですが、症状や経過はRSV感染症とよく似ています。RSV感染症と比べると、発症年齢がやや高いこと、呼吸器症状がやや軽い傾向がありますが、入院治療が必要になることもありますので、油断はできません。

5月以降、さまざまな感染症が月替わりあるいは同時流行しています。しかも、その流行規模が大きいのが特徴です。コロナの3年間、それまで流行していた感染症がほとんどみられませんでした。そのため、感染症に対して免疫を持たないお子さんが集団生活の場で蓄積していることがその要因と考えられています。

院長のコロナ体験記

9月下旬、私自身コロナにかかってしまいました。突然の高熱、頭痛、全身倦怠感で発症し、2日間は、高熱が持続し意識が朦朧としたまま、ベッドから起き上がれませんでした。3日目に下熱しましたが、私の場合、発症当初から吐き気と下痢で水分や食事がほとんどとれなかったことが問題でした。

文献によると、コロナでは15~40%で消化器症状を伴うということです。コロナでは脱水にも注意が必要ということを知られました。現在、第9波の真っ只中です。9月20日から始まったコロナワクチン。現在流行中の変異株（エリス）に有効です。可能な方は是非接種をしてほしいと思います。



9月の感染症情報

9月前半は咽頭結膜熱を主体とするアデノウイルス感染症とインフルエンザが目立ちました。9月後半もインフルエンザが引き続き増加していますが、未就学児ではヒトメタニューモウイルス感染症が目立ってきました。

コロナは、1医療機関あたりの感染者が10~20人と横ばいの状態が続いています。



9月の利用状況

8月の利用延べ人数は119名、1日平均利用人数は6.3人でした。年齢別では1歳児が30人で最も多く、次いで3歳児の20人、5歳児の17人の順でした。疾患別では急性上気道炎が49人で最も多く、次いでA型インフルエンザ26人、ヒトメタニューモウイルス感染症24人の順でした。

インフルエンザの入室が増えたことで、年長児の入室が多くなりました。インフルエンザは出席停止期間が決まっており、未就学児では発熱後5日、解熱後3日となっていますので、どうしても休園期間が長くなってしまいます。キッズケア青い鳥ではインフルエンザは発症3日目からのお預かりとさせていただいております。よろしくお願いたします。